
【 景 観 編 】

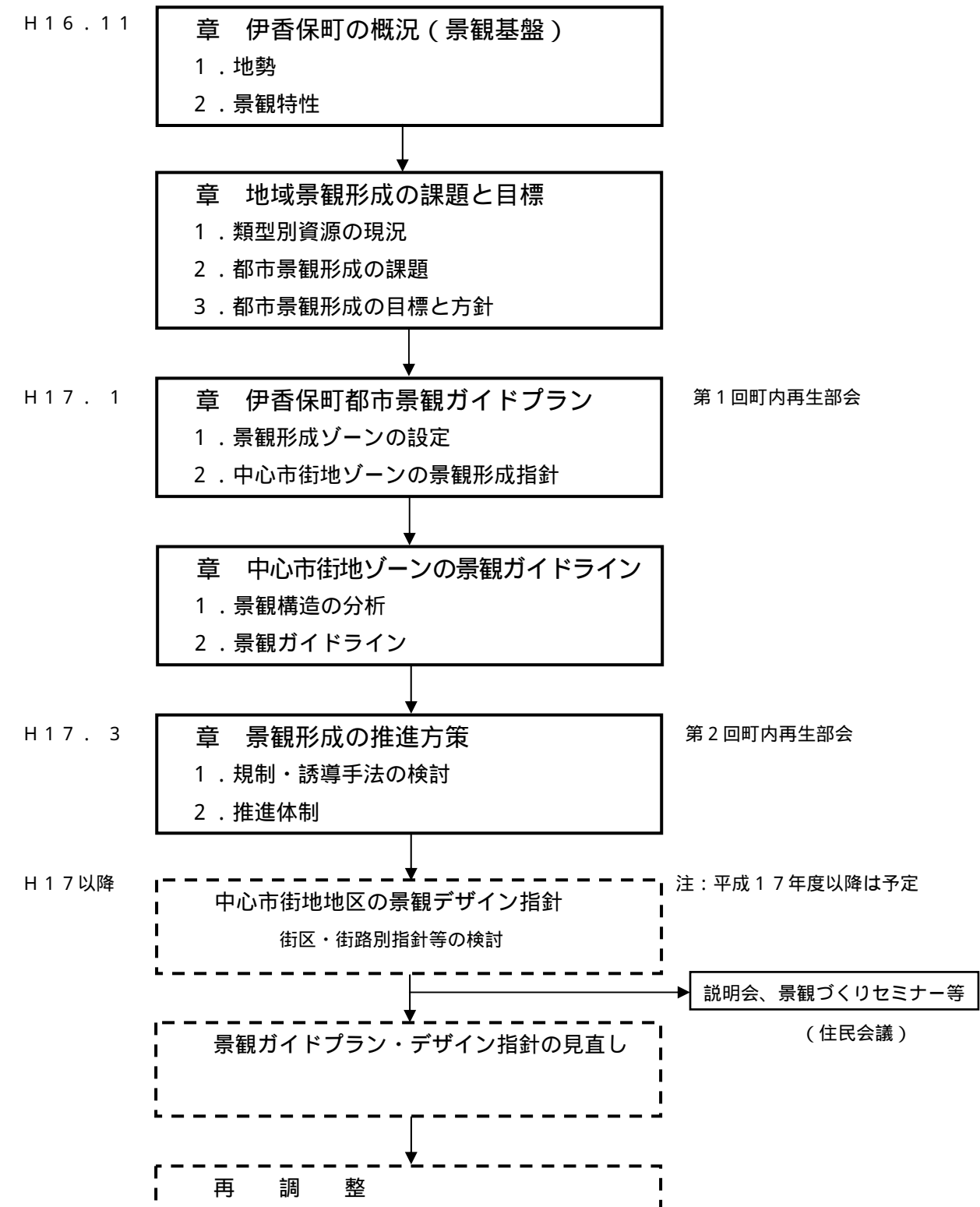
伊香保町景観計画及び中心市街地地区景観ガイドライン

はじめに

- ・「伊香保町景観計画及び中心市街地地区景観ガイドライン策定調査」は、平成 16 年度の地域創生事業「従来型温泉地再生戦略」の一環として実施されるものであり、この「従来型温泉地再生戦略」は、温泉観光地である伊香保町の魅力の向上を図り、観光客の滞留・滞在化、そして再訪を促す事を主眼とした事業である。
- ・本調査は伊香保町における「従来型温泉地再生戦略」事業の一翼を担うものであり、魅力ある温泉観光地景観の実現を図ること目的としているが、一方において本計画は単に観光地としての景観的な魅力の向上を目指すのみでなく、生活の場としての伊香保町の住環境としての景観の質の向上を目指すものでもある。
- ・ただし、この場合、伊香保町の景観計画においては、住環境の景観的な向上を図りつつも、さらに来訪者を呼び込む観光地空間として、より魅力的な景観整備を進めるべきであることは言うまでもなく、したがって、言い換えれば“茶の間づくりよりも客間づくり”に視点を据えた質の高い空間整備を目指した計画づくりを進める必要がある。
- ・このような「客間づくり」を進める上では、地元一般住民と観光事業者、行政の三者の相互理解と協力体制が不可欠であり、観光事業者と行政は一般住民の生活に配慮した町づくり、景観づくりの姿勢を、また一般住民と行政は魅力ある客間（観光地）づくりに配慮した協力姿勢をとるために、常日頃から意思の疎通を図り相互の信頼関係を維持していくことが必要である。
- ・なお、本調査では、右図のような行程に沿って実質 3 ヶ月ほどの短期間において伊香保町の景観計画をとりまとめ、さらに平成 17 年の前半において中心市街地内における景観デザイン指針をとりまとめる予定である。
- ・これは、本事業と並行して実施されている県や国の支援事業等において、すでに中心市街地各所における新たな公共空間の整備計画が策定されつつあり、中心市街地内における公共空間整備のデザイン的な統一と街の景観的な向上を図る上で、本調査の成果が緊急に求められているためである。
- ・しかし、景観計画は本来まちづくり事業の骨格をなす計画として、一般町民との話し合いや有識者等による景観審議会の議論等を経て、幅広い町民層の理解と支援を得ながらとりまとめるべき計画であり、調査と議論を含めて、最低でも 1 年程度の時間を要すべき事業である。
- ・このような状況を踏まえ、本調査についてはやや変則的な進め方ではあるが、今回の調査成果はあくまでも暫定的な景観計画案としてとりまとめ、策定後においても行政の責任において町民との話し合いを継続し、必要に応じて計画内容の見直しや新たな視点の追加等を行っていくことが必要と考えられる。
- ・また、平成 18 年 2 月には、伊香保町は渋川市との合併が予定されており、合併後においては、

平成 16 年 12 月に施行された「景観法」に基づき、新市が“景観行政団体”の指定を受けることによって、新たな景観計画や景観条例の制定が行われる可能性も高いため、本調査およびその後の継続検討を、新市における景観計画の策定に適切につなげていく配慮も必要となろう。

< 調査の行程 >



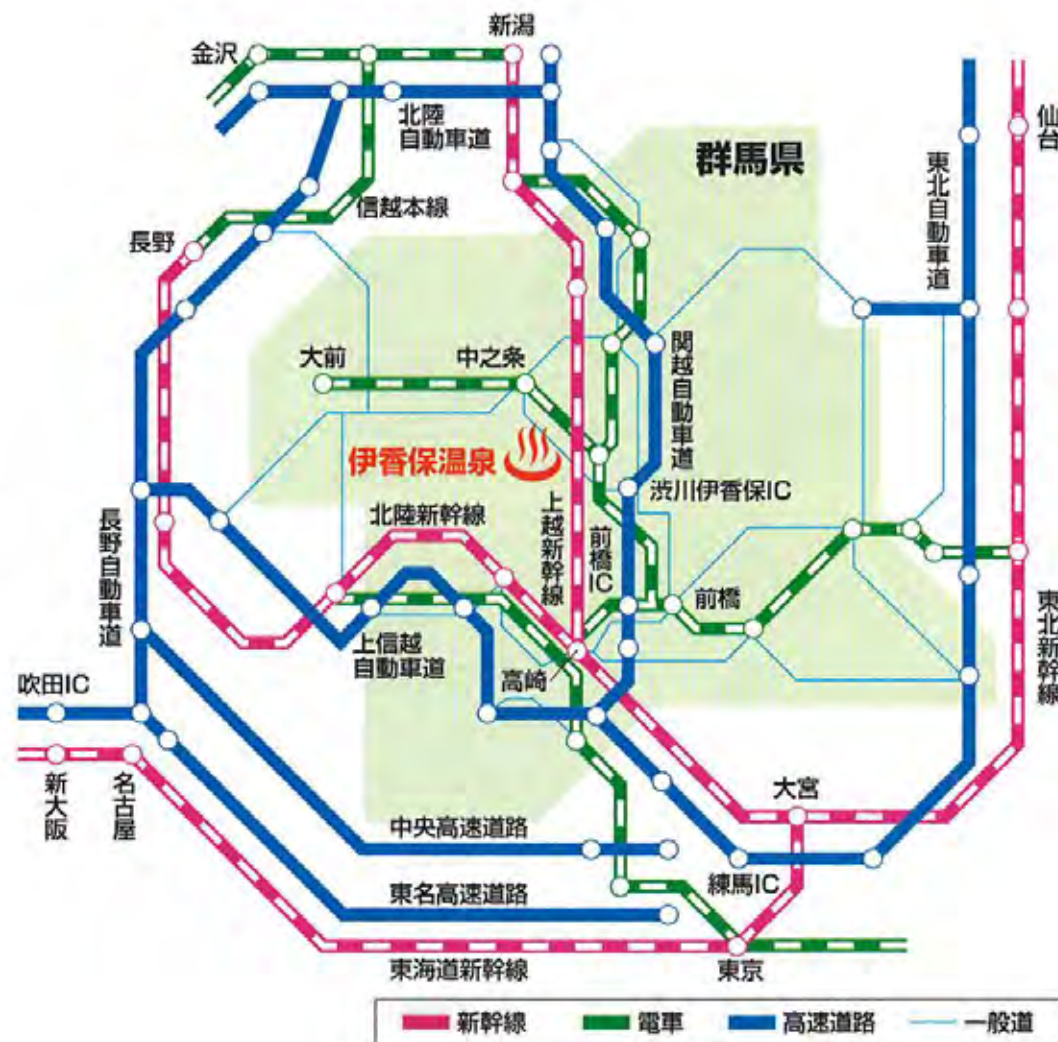
1章 伊香保町の概況

1. 地勢

(1) 位置と交通条件

- ・伊香保町は、榛名山北麓の標高約 490m ~ 1,440mの斜面に位置し、J R 上越線の渋川駅からバスで約 20 分の距離にある。
- ・主産業である観光産業の市場である首都圏（東京）からは、約 130 kmの距離にあり、関越自動車道を利用して自動車約 1 時間半、J R 上越新幹線と上越線の渋川駅経由により約 2 時間で到達できる。
- ・また、伊香保温泉は群馬県民にとっての奥座敷として、会合や宴会等の需要も多く、県内の人口集積地である前橋・高崎地域からは自動車約 30 分の至近距離にある。

図 1-1 交通条件図



(2) 歴史と産業

- ・伊香保町は町内に湧出する温泉を活かした温泉保養施設群を基盤として発展した町であり、主産業は温泉観光宿泊客を主体とした観光業である。
- ・伊香保温泉の歴史は古く、町の中心にある石段街は、約 430 年前の天正 4 年(1576 年)頃に武田氏の配下であった木暮氏ら七氏が湯元から集落を移し、傾斜地を利用して石段を造成すると共にその左右に屋敷を配して、湯元から引いた温泉を分湯したことに始まったと伝えられている。
- ・寛永 16 年 (1639 年)には引湯権に関する規定が定められ、その頃には温泉の引き湯口は十四戸が持っていた。明治時代には、十四軒の「大家」の基でそれぞれの家来筋にあたる「門屋」が大家から土地と洗い場を預けられて「湯治人宿」を商っていた。また、大家と門屋以外の者が「店借り」と呼ばれて、家作を借りて酒店や豆腐店、髪結、油屋、畳屋などを商い、現在のような街並みを作り上げていった。
- ・武士や庶民の旅が盛んな江戸時代には、伊香保温泉は遊興保養地として隆盛し、また「子宝の湯」「婦人の湯」とも呼ばれ、庶民と共に滝沢馬琴や十返舎一九などの多くの文人墨客も訪れた。
- ・さらに明治 23 年には、県下唯一の御用邸が開設され、中央の政財界人、文人、外国人の避暑地としても賑わった。特に、文豪徳富蘆花の著書「不如帰」の舞台となったことで「伊香保温泉」の名は全国に知られるようになった。
- ・明治 22 年に、伊香保村、湯中子村、水沢村の 3 村が合併して町制施行し、現在の伊香保町が形成された。
- ・戦後は、旅行の大衆化やモータリゼーションとともに旅館は大型化高層化し、街には飲み屋や土産物店が増加し、温泉街の近代化が進む一方で、湯治場としての情緒は次第に減少した。昭和 30 年代には堺沢地区の町有地を民間に開放して新泉街建設の造成計画が図られ、昭和 39 年には旅館経営希望者の増加から、旅館経営の許可を抽選で行う「大伊香保計画」が策定された。
- ・景気の変動による入り込みの変化はあったものの、昭和 55 年からの石段の改修、昭和 60 年の関越自動車道の渋川・伊香保インターの開設等によって観光客はさらに増加した。しかし、平成 2 年のバブル崩壊以降客足の減少と宿泊施設間の優勝劣敗の動きが強まり、旅館や公的宿泊施設の閉鎖が生じる一方で、足元から見直した温泉地づくりを進めようとする住民や行政によるまちづくりの動きが次第に活発化し、まちの景観にも変化が生じつつある。

写真 1-1 明治初期の石段街



写真 1-2 大正初期の石段街



写真 1-3 現在の石段街



資料：伊香保温泉旅館協同組合『設立 50 周年記念誌』

(3) 人口動態

- ・人口は、1975年（昭和50年）をピークに減少が続いており、2004年ではピーク時の1975年よりも約2割減少している。
- ・伊香保町では、人口の88.7%（平成15年）が観光を主体とした三次産業に依存しており、観光客の志向の変化によって団体宴会客が減少すると共に、宴会需要や2次会需要も減少し、芸者置屋やパブ・スナック等のサービス関連業者の休廃業と人口流出が発生した。
- ・特に、平成2年のバブル経済の崩壊期以降、経営が逼迫する旅館も増加し、従業員や下請け事業の削減が人口の減少を加速化させている。

表 1-1 人口・世帯数等の変化

	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2004
総人口	4,428	4,698	4,778	4,797	4,702	4,530	4,382	4,322	3,955	3,787
世帯数	829	1,058	1,271	1,381	1,445	1,593	1,638	1,770	1,646	1,631
高齢化率	-	-	-	-	10.34%	12.34%	13.78%	16.47%	21.16%	25.17%

資料：伊香保町住民基本台帳人口一覽

(4) 気象条件

- ・市街地の標高は約600～700mで、北向き斜面に位置し、日照時間が短く風通しも良いため、気温は年平均11.1度と冷涼で湿度も低く、夏は過ごしやすい。
- ・雨量はやや多く、冬は、積雪があり日照条件も良くないため、路面凍結なども生じやすく、住民生活や観光産業の維持に向けた様々な寒冷地対策が必要とされる。

表 1-2 気象条件

月	気 温 (°C)			降水量 (mm)	降雪量 (cm)
	平均		最低		
4	8.0	18.0	-1.0	248.0	0.0
5	14.2	26.0	6.0	196.5	0.0
6	17.4	28.0	8.0	180.0	0.0
7	22.3	32.0	14.0	366.0	0.0
8	23.3	30.0	17.0	199.5	0.0
9	18.9	33.0	10.0	450.0	0.0
10	12.6	24.0	3.0	109.0	0.0
11	6.8	15.0	-3.0	35.0	0.0
12	1.6	13.0	-8.0	1.0	7.0
1	-2.3	5.0	-10.5	19.0	52.5
2	-0.5	12.0	-9.5	30.0	5.0
3	2.6	17.0	-7.0	55.5	20.0
年平均気温	11.1	-	-	計 1,889.5	計 84.5

資料：町勢要覽（資料編）

(5) 土地利用と規制

1) 土地利用と道路配置

- ・町の総面積は2,232ha(22.32km²)で、南部の高標高地域を中心に分布する山林面積は、約907haで総面積の約40%を占め、「その他」の土地も大半が山林であるため、町域の大半は林地が占めている。山裾部に分布する農地面積は約88haで約4%程度でしかない。
- ・主要な道路は、渋川と伊香保を結び榛名山頂を経て松井田に至る主要地方道渋川・松井田線が市街地を横断しているほか、北側の小野上村から伊香保町に至る県道伊香保・小野上線（あづま街道）そして前橋・高崎方面から水沢観音を経て伊香保町に至る主要地方道前橋・伊香保線（水沢街道）などがある。

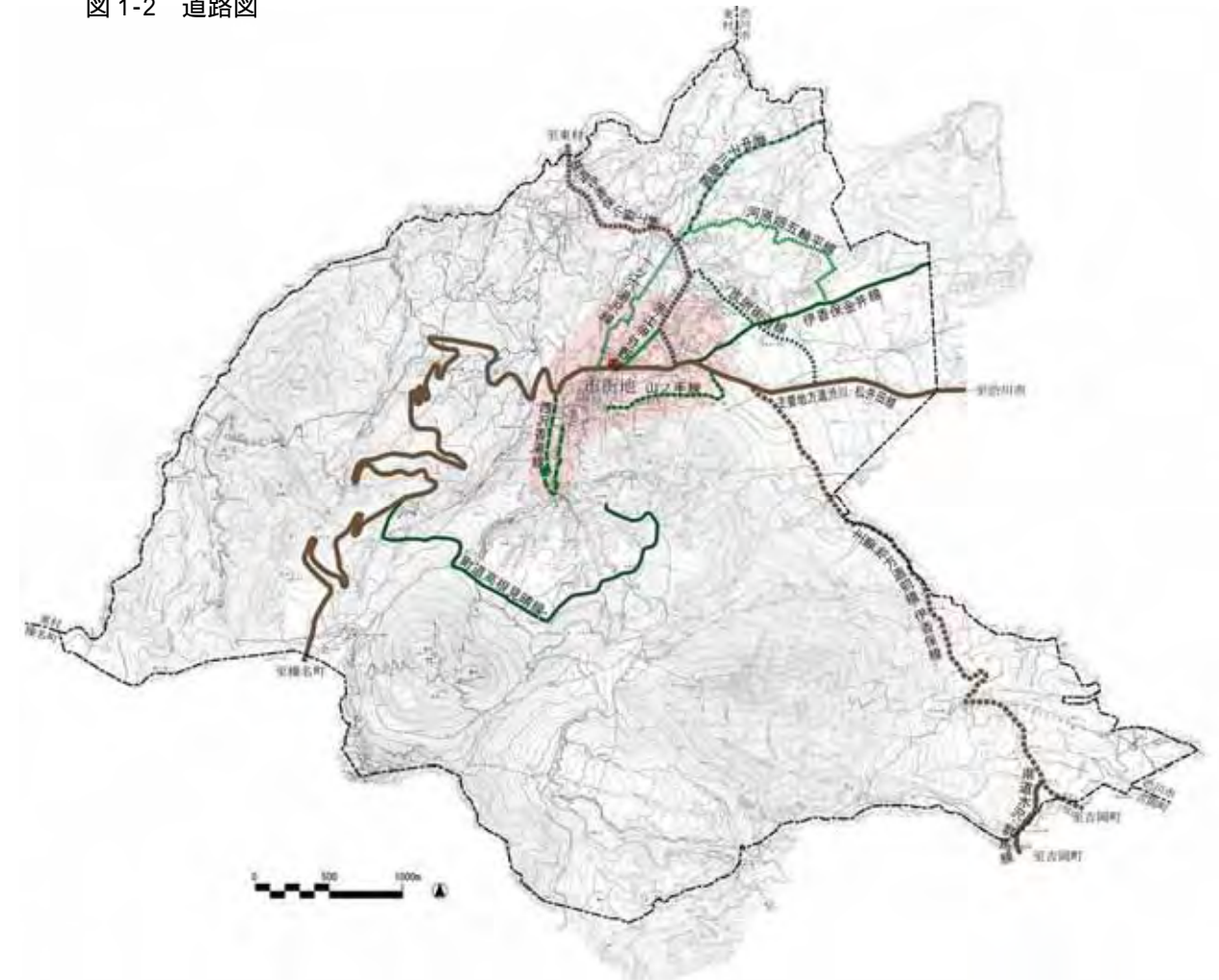
表 1-3 土地利用面積

(ha)

面積	農 用 地			山林	宅地	雑種地	その他
	田	畑	計				
22.32	0.12	0.76	0.88	9.07	0.92	1.58	9.87

資料：町勢要覽（資料編）

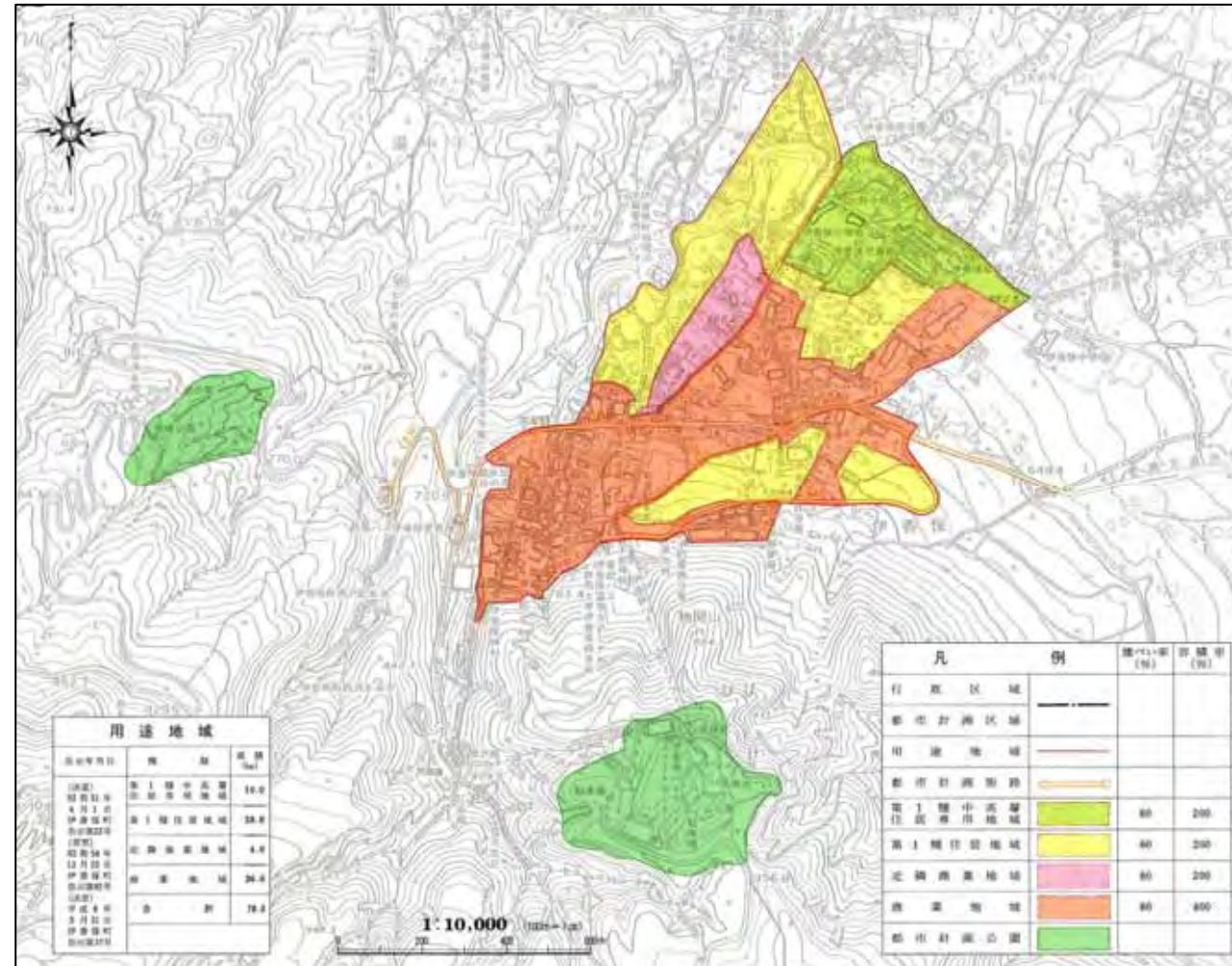
図 1-2 道路図



2) 規制等

- ・町域全体が都市計画区域に指定されており、用途地域は78haで、その内温泉街を中心とした商業地域が36haあり、隣接する近隣商業地域(4ha)を含めると、用途地域の約51%が商業系となっている。
- ・都市公園は、市街地からやや離れた位置にあるため、地元利用はあまり期待できず、市街地内部における公園整備も必要とされている。

図1-3 用途地域図



- ・平成16年5月に策定された伊香保町の都市計画区域マスタープラン「伊香保都市計画・都市計画区域の整備、開発および保全の方針」では、町域に3つのゾーンを設定し、次のような将来像を定めている。

市街地ゾーン

- ・榛名山の美しい森に囲まれた都市としての魅力を高めるために、山麓の高低差をたくみに活かしながら、限られた土地の効果的な利用にも配慮した、立体感のある市街地の形成を図る。市街地では、温泉を活用した魅力あるリゾート機能や、自然と調和した居住環境を形成する。
- ・また、全ての人が平等に生活環境を享受できるように、バリアフリーやユニバーサルデザインの都市環境づくりを図る。

【保養・健康リゾート拠点】

- ・石段周辺と幹線道路沿いの温泉街を中心に、商店や宿泊・保養施設などの集客交流施設が集積する保養・健康リゾート拠点の形成を図る。

集落環境保全ゾーン

- ・市街地周辺の農村集落地については、農業振興を図るとともに生活基盤の整備を図り、美しい田園景観を保全する集落環境保全ゾーンとする。

自然環境保全ゾーン

- ・市街地のまわりを自然環境保全ゾーンで囲むことにより、雄大で美しい自然と調和した都市づくりを目指す。

【公園緑地拠点】

- ・長峰公園、上ノ山公園、水沢公園については、自然環境や歴史風土を活かした公園緑地拠点とする。

図1-4 伊香保都市計画区域 将来構想図



- ・平成16年5月に策定された伊香保町の都市計画区域マスタープラン「伊香保都市計画・都市計画区域の整備、開発および保全の方針」では、町域に3つのゾーンを設定し、次のような将来像を定めている。

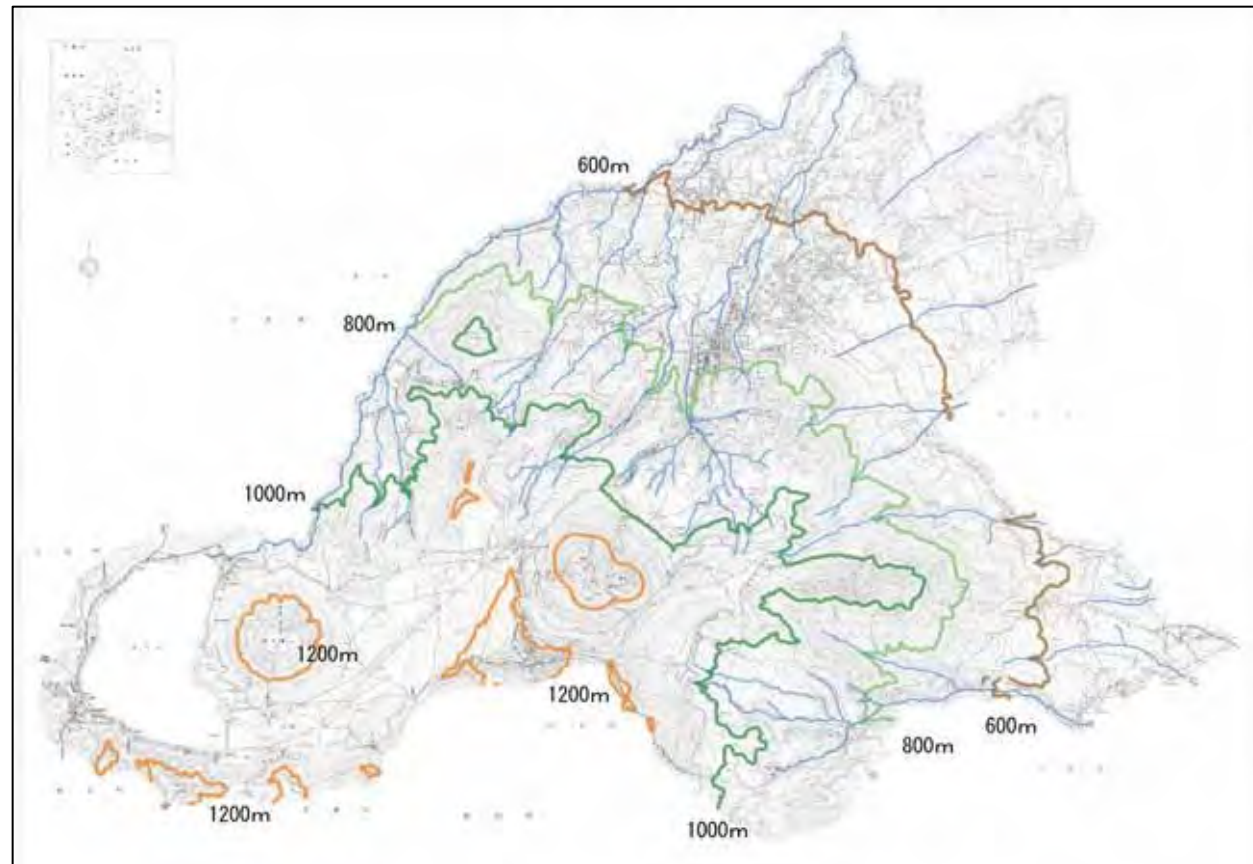
2. 景観特性

(1) 地形と植生

< 地形 >

- ・ 中心市街地は標高 700m から 800m に位置し、標高 800m 以上は森林地域となっている。中心市街地である温泉街の上部には、源泉の湧出地区とその集水区域である森林が広がり、その大半は県立森林公園として保全されている。
- ・ 標高 1,000m を超える地域には、榛名山の外輪山である相馬岳や蛇ヶ岳、さらに寄生火山の雄岳、雌岳、孫岳、水沢山等の急峻な溶岩丘がそびえ立ち、個性的な火山景観が見られる。
- ・ 溶岩が削られた谷筋を流れる水系は多いが、火山灰地であるため表流水は少なく、水辺の潤いを感じられる空間は極めて少ない。

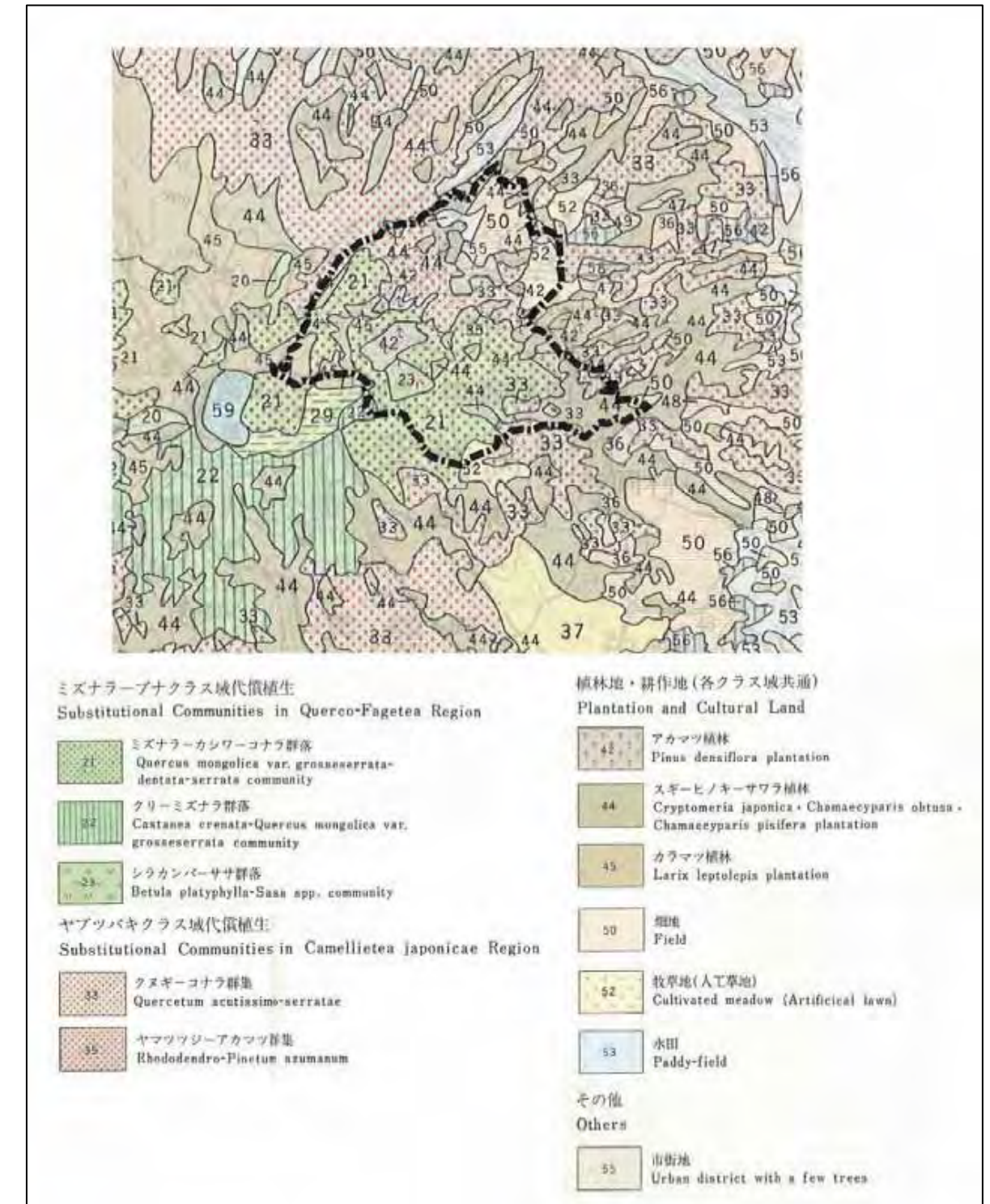
図 1-5 地形図



< 植生 >

- ・ 標高 600m 以下の低地は農地と二次林が多く、その上部の 600～800m 地域にはスギ-ヒノキやアカマツの植林地が多い。
- ・ 標高 800m を超えたあたりからは、一部がカラ松の植林地になっているほかは自然林が保全されており、県立森林公園を中心にミズナラ-カシワ-コナラを主体とした落葉樹林帯が広がっている。

図 1-6 植生図



(2) 道路配置

- ・ほとんどが傾斜地である町内の道路は、町道を主体に等高線に対して水平か垂直に配置されている道が多いが、勾配の急な温泉街の内部においては、階段や斜めに上る坂道も多く見られる。
- ・石段街を中心軸とした旧市街地の道路は狭隘道路ではあるが、400年の歴史の中で人間の歩行を基本として作られているため、急傾斜地内の道路としては比較的歩きやすい道路パターンとなっている。

図1-7 町道の配置パターン



(3) 景観を構成する主要施設

- ・伊香保町の景観を構成する主要施設としては、次のようなものが挙げられる。

交通施設	まちの駅、関越交通バス伊香保駅、ビジターセンター、石段、関屋橋、河鹿橋、紅葉橋
公共公益施設	伊香保町役場、消防署、商工会、金融機関(3店舗)、伊香保町コミュニティセンター、伊香保小学校、伊香保中学校
観光・商業施設	石段街温泉街(旧市街地)、新市街地(東地区温泉街)、水沢うどん店街、蘆花記念館、竹久夢二記念館、関所
レクリエーション施設	県立伊香保スケートセンター、伊香保町体育館
産業施設	伊香保ガス
歴史的建造物	旧ハワイ公使別邸、伊香保神社、医王寺薬師堂、湯中子大山祇神社、水沢寺観音堂、水沢寺六角二重塔、中子稲荷、境沢稲荷、

<主要都市施設の概要は以下の様なものである>

- ・公共施設の中では、まちの駅は坂道の最上部に位置し、ロープウェイ駅と一体化した中層建築であり、大正ロマンのイメージを持つ比較的目につきやすい、ランドマークとなりうる建築である。
- ・温泉街の中心部に位置する360段の長い石段は、両側の温泉旅館や商業施設の街並みと共に伊香保温泉のシンボリックな空間となってきた。
- ・町内に3つある銀行等の金融機関の建物は、シンプルな近代的デザインではあるが、温泉街の情緒的な雰囲気との調和にはやや欠けている。
- ・伊香保町の中心市街地を構成する温泉街は、近代化に伴って石段外周辺から東西方向へ拡大し、新旧・大小の建物が商業施設や住宅と混在して、全体としては、まとまりに欠けたやや乱雑な様相を示している。また、一部では旅館や観光関連施設の休廃業に伴って賑わいが損なわれている。
- ・伊香保町内に点在する神社や寺院等の歴史的建造物や石段は、伊香保町の過去と未来の風景を繋ぎ合わせる重要な景観素材であり、また温泉街の魅力や情緒を醸し出す要素としてもこれらの素材を適切かつ効果的に保全活用する知恵が求められている。

(4) 伊香保町の景観特性

- ・伊香保町は、湯元の位置との関係から、「北向きの急斜面に高密に形成された国内でも希有な構造の温泉市街地」であり、南側はそびえ立つ山岳と森林に囲まれて日照条件には恵まれない。
- ・温泉旅館群の多くは、南からの日照を十分期待できないこともあって、眺望を生かすことのできる北向きや西向き、あるいは東に開口部を向けた建物もあり、街並みとしては建物の方向性のそろわないやや奇妙とも感じられる街並みが形成されている。
- ・また、伊香保町は降雪地であるため、冬季は坂道の路面凍結対策など厳しい自然条件を克服しながらまちづくりを進める必要があり、景観対策においても、一般的な市街地と比べるとより多くの創意工夫が求められる。
- ・伊香保町の景観の骨格をなす景観構成要素としては、榛名山を構成する相馬山や二ツ岳、水沢山、蛇ヶ岳、五万石、臥牛山等の「火山性の山々」と、それを覆う「森林の緑」がある。
- ・これらの森林は、伊香保温泉の源泉地区を取り巻く源泉の森でもあり、「自然景観」と「温泉」そして「自然生態系の保全」と「森林レクリエーション」の4つの意味から、伊香保町にとって重要な自然環境である。
- ・「まちの領域」については、南部と西部は榛名山系の山々に囲まれ、北部の山裾部は沼尾川の渓谷に、そして東部の渋川市境界部は、伊香保国際、伊香保カントリーなどのゴルフ場や伊香保グリーン牧場、そして渋川市営総合公園等の広大な緑地帯が縁辺部に連なり、「まちの周囲はすべて自然に囲まれている」。
- ・これらの主要な景観構成に加えて、町のイメージを形作る主要な景観構成要素（地域）としては次のようなものがある。
 - ・石段街を核とした伊香保温泉街
 - ・主要地方道前橋・伊香保線沿いの水沢寺とその周辺のうどん店街
 - ・市街地の北部の山裾部分に広がる住宅地と農地の樹林が混在する田園地帯
 - ・湯中子地区の農地集落
- ・これらの景観構成要素のうち、山岳・丘陵の緑や斜面地・平坦地、農地の緑は、地域の良好な景観の維持に機能している場合が多く、特に中心市街地と接する斜面緑地の緑は市街地と一体となって「豊かな自然に囲まれた町」の印象をもたらす効果がある。
- ・また、伊香保町を特色づける景観特性としては、「眺望景観」に恵まれている点があげられ、市街地内の石段街や温泉旅館あるいは上の山公園などから眺める北側の景色は、小野子山や子持山を正面に据えて西側の草津白根山系から北部の谷川山系、武尊山、日光白根山を経て東側の赤城山方面に向けた大パノラマ景観であり、多くの人々に感銘を与える特筆すべき景観と言える。
- ・さらに、まちの人々が常日頃慣れ親しんだ、目につきやすく目標物ともなる景観要素として、

二ツ岳、水沢山などの山岳や、まちの駅、伊香保神社などの「ランドマーク」がある。

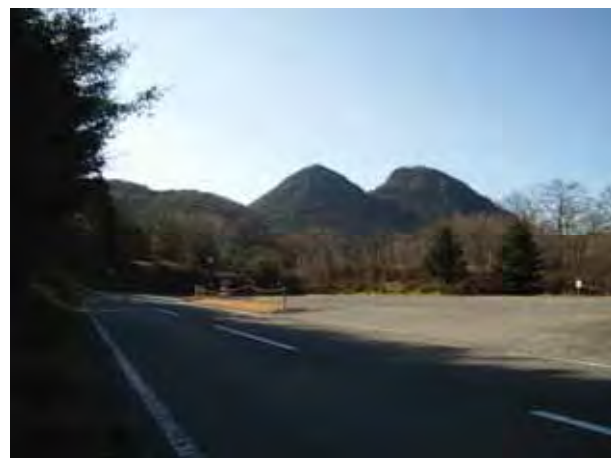
- ・その他の人工的な工造物については、景観形成上十分な配慮が払われない限り、景観を損なう要因となっている場合が少なくない。
- ・さらに、「眺望景観」や「ランドマーク」と共に重要なものとして「場の景観」があるが、これ等については、特定の視点を想定する事はできないが、地区の雰囲気や醸しだしている景観である。伊香保町において「場の景観」として重要と考えられるのは、石段を中心とした旧市街地の温泉街が生み出す情緒的な雰囲気であり、石段や旅館、路地、土産物店等の構造物や周囲の水と緑、道路上のストリートファニチュア等が重要な景観構成要素となる。
- ・伊香保町における、これらの景観特性をパターン図に示すと（図1-8）のようになる。

< 町民の景観意識 >

- ・伊香保町が平成14年に実施した「伊香保町まちづくり住民意識調査」において回答した1,042世帯の町民が記入した「伊香保町の中で好きな所（物） 将来も大切に残したい所（物）」としては、以下のような場所や物があげられており、今後のまちの景観整備や地区毎の景観整備において参考としていく必要がある。

伊香保町民が「伊香保町の中で好きな所（物） 将来も大切に残したい所（物）」		
<ul style="list-style-type: none"> ● 石段街 ● 水沢寺と周辺 ● 薬師堂 ● あきば稲荷 ● 湯中子神社 ● 大山ずみ神社の大杉と参道 ● 伊香保神社 ● 徳富蘆花記念文学館 ● 竹久夢二記念館 ● グリーン牧場 ● スケート資料館 ● スケート場 ● ハワイ別邸 ● 町営ロープウェイ ● 不如帰駅とまちの駅 ● 見晴台 ● 共同風呂 ● 石段の湯 ● 観光協会の露天風呂 ● 鷲の巣風穴 ● 七重の滝 ● 小満口 ● 町並 ● 町内の木造の旅館の保護 ● 二区にある壊れかけた蔵 ● 町内にあるなまこ壁の建物 ● 町内の歴史素材 ● 関所跡 ● 道祖神 ● 万葉歌碑 	<ul style="list-style-type: none"> ● 源泉 ● つつじヶ丘 ● 森林公園 ● 横手館別荘跡地のもみじの大木八幡坂の桜 ● 弁天様の大木 ● かみなり坂の休憩所と周辺の林 ● 松井田線沿いの桜 ● 伊香保グランドホテルの県道に面した大きな松の木 ● 湯元のもみじと紅葉 ● 長峰のつつじと桜 ● いなり茶屋の榎の木 ● 水沢街道の桜 ● 渋川松井田線ベルツの湯の周りの杉林 ● 八幡坂のタンポポ ● 児童館裏の土手 ● 湯中子の田んぼ ● 八千代坂の風情 ● 文学の小径 ● ヤセオネハイキングコース ● 湯元通り ● 横手館前の道路(風情があるので残したい) ● ときわの水 ● 湯中子から見た二ツ岳 ● 高嶺から見る景色 ● 八区周辺から見る周囲の景色 ● 観山荘周辺の景色 	<ul style="list-style-type: none"> ● 伊香保の夜景 ● 岡崎地区から見た伊香保の夜景 ● 伊香保から見た小野子山 ● 石段街から見る子持山とかみつけ信用組合前から見る小野子山 ● 天明仁泉亭の窓から見る景色 ● ホテル木暮の工事現場から見る周りの景色 ● 自然環境を残してほしい ● 明保野の交差点から水沢入り口の間を通ると伊香保にきた感じがすること。 ● 水沢入り口三叉路を整備しお地蔵様をきれいに保護してほしい ● 湯沢川の美化とカジカ蛙の保護 ● 原沢医院、伊香保クリニックをいつまでものこしてほしい ● 伊香保祭り ● 石段ひなまつり ● たびの日 ● 伊香保の空気 ● 旅人への人情 ● 八幡坂の八幡様の復活 ● 芸者さんの育成 ● 学校・花街ということ ● 湯の花まんじゅう ● 伊香保出身者 ● 清芳亭の桜餅

ランドマーク：町が目印



森林公園内から眺めた二ツ岳



渋川市側から眺めた水沢山

結節点：交通、人の流れの交差点、町の核



石段



主要地方道渋川・松井田線の登山口交差点

区域：共通の特徴を持つ地域



旧市街地の中心部である石段街の商業店舗と最奥部に位置する伊香保神社



ロープウェイ駅舎が組み込まれているまちの駅



温泉街と市街地の全景



水沢寺周辺のうどん店街



水沢観音堂

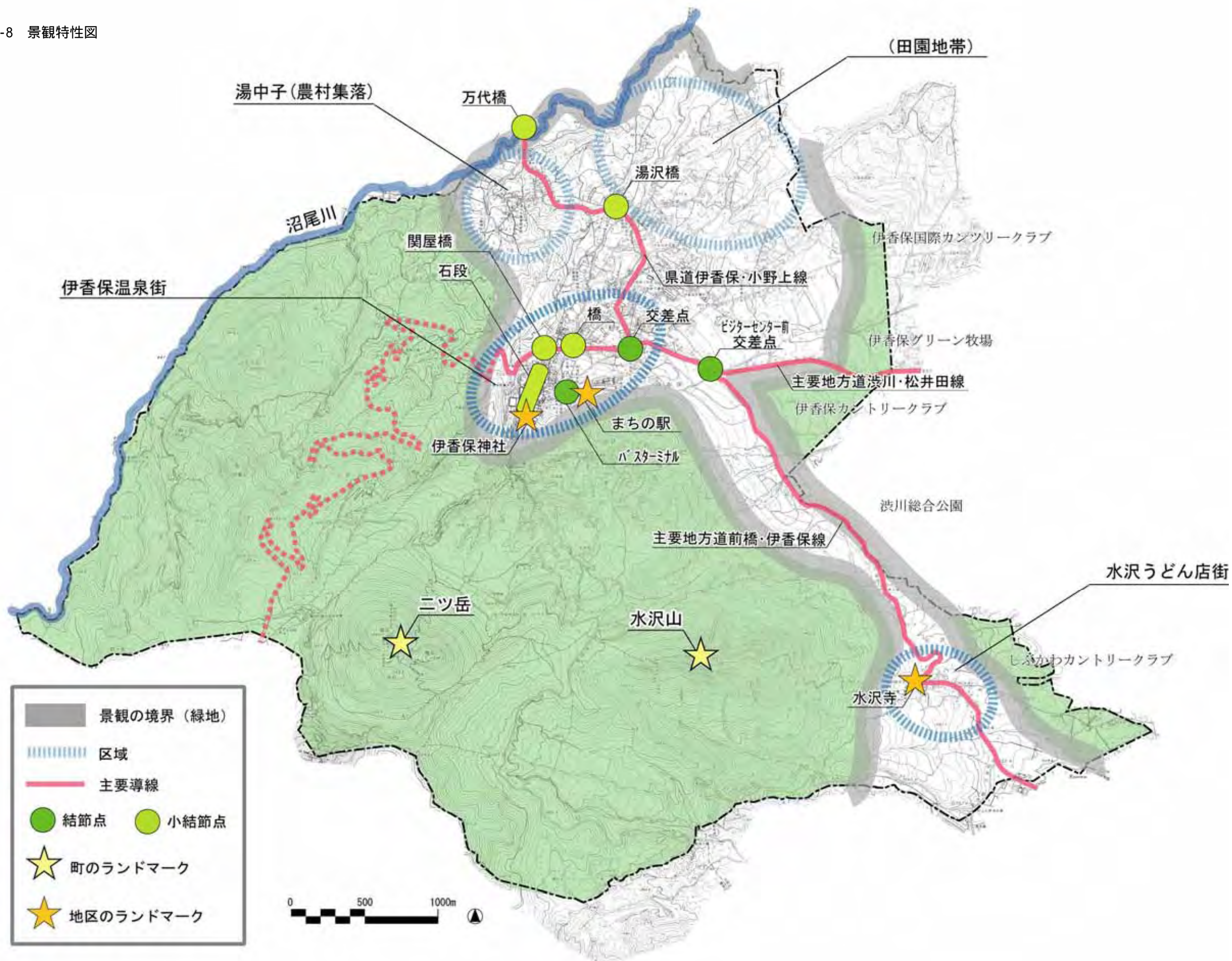


湯中子の農地と農村集落



山裾の田園地帯

図 1-8 景観特性図



2章 地域景観形成の課題と目標

1. 類型別資源の現況

伊香保町の景観を類型化にあたり、標準的とされている分類体系である全体景観、地区景観、スポット景観の各景観のレベルに沿って町内の景観を整理すると以下ようになる。

< 類 型 >	< 対 象 例 >
全体景観 <ul style="list-style-type: none"> (骨格構造) (地区空間) (眺望地点) 	山岳森林地域、沼尾川、西部緑地帯（伊香保国際CC、伊香保CC、伊香保グリーン牧場、渋川市総合公園） 伊香保温泉街、水沢うどん店街、田園地帯、湯中子集落 中心市街地各所（まちの駅等）、上ノ山公園（見晴展望台）、長峰公園、新見晴展望台、伊香保小学校、伊香保中学校
地区景観 <ul style="list-style-type: none"> 自然地域景観 <ul style="list-style-type: none"> ・自然緑地景観 都市軸景観 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化軸景観 ・道路軸景観 ・河川軸景観 市街地景観 <ul style="list-style-type: none"> ・観光・商業地区景観 ・門前商業地区景観 ・田園集落景観 ・工業地区景観 	相馬山、二つ岳、水沢山、県立伊香保森林公園、上ノ山公園、長峰公園 石段街温泉旅館群 主要地方道渋川・松井田線（伊香保街道、一文字通り）、主要地方道前橋・伊香保線（水沢街道）、県道伊香保小野上（あづま街道） 湯沢川とその支流 石段街温泉街、（新市街地）温泉街、（山裾地区）温泉街 水沢観音門前うどん店街 湯中子、山裾の田園集落地域 なし
スポット景観 <ul style="list-style-type: none"> 橋 坂 街路、遊歩道 交差点 交通ターミナル 小公園 特殊建築物 社寺建築 観光施設 旅館、商業建築 花、紅葉の名所 大木、並木、樹林 生け垣 イベント（屋外） 	関屋橋、湯中子橋、万代橋、河鹿橋、紅葉橋 八千代坂、八幡坂、かみなり坂、梨木坂、弁天坂 湯元通り、石段通り、湯の香通り、ときわ通り、関所通り、見晴台温泉街通り、文学の小径 ビジターセンター前、登山口（万葉歌碑前）、役場前、まちの駅前 不如帰駅（まちの駅）前バスターミナル、群馬バスターミナル、 伊香保御用邸跡、飲泉所、石段街ポケットパーク、かみなり坂ポケットパーク 伊香保中学校、伊香保小学校、観光会館（役場）、社会体育館、コミュニティセンター、社会福祉センター、伊香保スケートリンク 伊香保神社、水沢観音堂、水沢寺、医王寺薬師堂、大山祇神社、中子稲荷、境沢稲荷、 ビジターセンター、まちの駅、徳富蘆花記念文学館、竹久夢二記念館、旧ハワイ公使別邸、伊香保関所跡、石段の湯、露天風呂、伊香保ロープウェイ 各温泉旅館、各商業施設 八千代坂の桜、紅葉橋付近 のケヤキ、中子稲荷のハンノキ、大山祇神社の杉並木、伊香保CC付近の樹林と桜並木 伊香保祭り、石段のひな祭り



高層で時計台のついた屋根で、ランドマークとなっているまちの駅



県道沿いの交差点に位置し、多くの人の目に触れやすい伊香保町役場



新旧、大小旅館群が並ぶ伊香保温泉街



石段街の入り口に位置する旧ハワイ公使別邸



伊香保町のシンボルである石段



勾配屋根の建物で、開放的なデザインの外構部にそってケヤキが植えられている伊香保小学校



木造で落ち着いた雰囲気を持つ竹久夢二記念館（オルゴール館）



石段街を参道とする伊香保神社



新緑や紅葉の季節の写真撮影スポットとなっている木造風の河鹿橋



上ノ山に位置するが、大規模ながらも目立ちにくい位置に設置されている県立伊香保スケートセンター



薬師堂



伊香保町の歴史を感じさせる水沢寺の観音堂と六角二重塔



2. 都市景観形成の課題

- ・都市景観の評価（問題点）と課題について、伊香保町の地域全体に関するものと、各地区景観類型に関するものを地域の実態に即して整理すると、以下のようなものになる。

（1）全体景観に関する評価と課題

<全体景観に関わる評価>

まちの骨格がややわかりにくい

- ・周囲からの入り口は比較的認識しやすいが、まちの内部が景観的に混乱しており、中心部やメインストリートが明確でない。

町の中心がわかりにくい

- ・町の中心は石段街といえるが、幹線道路からは見えず、自家用車利用者の到達性も良くない。
- ・第2の核として、まちの駅周辺の整備が進みつつあるが、将来の空間イメージが見えない。

河川が景観軸に成り得ていない

- ・火山灰地であり通常は水の無い枯れ川が多い事は事実であるが、町中の河川は重要な自然景観資源であり、住民や温泉客が町中を散策する上で、水辺の潤い感や存在感が不足している。

まちの中心部が貧弱である。

- ・石段街ににぎわいや魅力が不足しており、視覚的にも沿道部の街並みが乱雑である。
- ・石段街は歴史性を感じさせる一方で、洗練されたファッショナブルな雰囲気欠けている。

温泉情緒が不足している

- ・温泉らしさを感じさせる湯煙がほとんど見られず、観光商業も衰退しているなど、町中において五感に訴えるべき温泉情緒が不足している。

坂道に魅力がない

- ・北向きの急傾斜地に立地する市街地であり、坂道が多いことは避けられないが、来訪者を迎え入れる観光地であるにもかかわらず、歩行者を気遣う配慮がほとんど見られず寒々しいイメージの坂道が多い。

交差点に特徴がない

- ・交差点に多くの看板類があり乱雑なイメージが強い上、修景処理もほとんど行われていない。
- ・本来、まちのイメージを強調すべき要所であるにもかかわらず、個性的な演出にも欠けている。

建物等が統一感に欠け雑然としている

- ・急傾斜地に大小さまざまな形の建物が高密度に建てられており、スカイラインも不揃いで乱雑な街並みのイメージが強い。
- ・建物の色彩や様式に周囲の建物との調和への配慮があまり見られない。
- ・日照条件が悪く、眺望対象が西、北、東方向にあり、また周囲の建物との関係もあって、建物の向きがまちまちであることも街並みに混乱したイメージを生じさせている。

歩行環境が貧弱

- ・日照条件がよいとは言えず、また細街路が多いためにやむを得ない面もあるが、道路に歩道が少なく街路樹もあまりない

整備された緑が少ない

- ・生活者にとっても観光客にとっても、街路樹や公園、並木などの整備はまだ不十分と言える。

事業の一貫性、統一性が発揮されていない

- ・それぞれの事業が独自に展開されている印象を受ける

擁壁が少ない

- ・まち全体が急傾斜地であるにもかかわらず、住宅分譲地を除いては、ひな壇型の敷地造成をおこなわずに地形に合わせた傾斜地型の建築を建てているため、圧迫感を生み出す大規模擁壁が比較的少ない点は景観的には好ましい状況と言える。

路地空間が多い

- ・傾斜地が多いために特に石段街周辺では等高線に沿った水平の路地が多く、自動車通行には向かないものの、界隈性を持った魅力ある歩行空間となりうる可能性を有している。

樹林や高木が残されている

- ・中心市街地においても山裾の田園地帯においても、傾斜地であるがために未利用の樹林地が各所に残されており、良好な都市景観の維持に向けた適切な保全策が期待される。

<全体景観に関わる課題>

景観構造の明確化

- ・町の入り口の一層の明確化
- ・道路と河川の景観軸化(楽しい徒歩空間、快適な通過空間、快適で潤いある環境として)
- ・交差点の個性化、わかりやすさ、適切な修景

歴史的文化的蓄積の活用

- ・生活のなかに活かす工夫が必要
- ・町の景観づくりに活かす工夫が必要

自然景観の保全育成

- ・河川の強調と水辺空間をより身近なものに
- ・沿道、集落、市街地内部の樹林樹木の保全と適切な緑化
- ・斜面緑地の保全・育成

景観の公共性の認識

- ・周辺との調和という視点の導入...“継観”の概念の普遍化
- ・あらゆる事業において景観的配慮が必要とされる

マスタープランに基づく個別事業の位置づけの明確化

- ・総体としての景観レベル向上へのプログラムづくりを

地域活性化に果たす景観計画の役割の徹底

- ・活気や賑わいの創出への貢献を目指す
- ・新しい文化の創造へ向けての配慮を

町民の手による美しい町づくり

- ・全町民的運動の展開へ(“継観”概念の普及)
- ・行政のリード、規制等も場合により考慮
- ・各種計画の検討過程での意向把握を重視

新たな景観の創造

- ・土木施設における調和に配慮した親しみの持てる景観づくり
- ・公共建築における個性的で親しみの持てる景観づくり

(2) 地区別類型別評価と景観課題

- ・伊香保町の景観の実態に即して整理した地区景観類型の分布を(図2-1)に示す。
- ・ここで言う実態とは、地域の景観と密接なつながりを持つ現在および将来の土地利用(図1-4)と、地形や植生を基盤とした景観特性(図1-8)がその主体となる。

〔地区景観類型〕

<自然地域景観>

自然緑地景観

<市街地景観>

観光・商業地区景観

門前商業地景観

田園集落景観

図2-1 地区景観類型の分布



< 地区景観に関わる評価 >

自然緑地景観

- ・ 榛名山麓北面の寄生火山群によって形成された、変化に富んだ山地景観を有する森林地帯であり、山麓部はアカマツやカラ松の植林地が多い物の、山上部はミズナラ、カシワ、コナラ等の自然林が多く、県立の森林公園も整備されている。
- ・ 伊香保温泉の背後を取り巻く樹林帯であり、景観的にも高密な開発が行われている市街地の背景をなす緑として、無機質な旅館ビル群の無味乾燥な風景を中和する重要な役割を担っている。
- ・ また、これらの榛名北麓の緑地は伊香保温泉の源泉を涵養する樹林でもあり、さらに眺望的にも優れた展望地点を有する地区であり、今後も適切な保護・活用策を講ずべき自然緑地である。

〔現況の評価〕

県立森林公園によって自然の保護と適度な開発が行われている

- ・ 県立伊香保森林公園内にはツツジやモミジ類の園地もあり、季節毎の魅力ある自然風景の演出が行われている。

優れた眺望景観を有する地区である

- ・ 見晴らし展望台や新見晴らし展望台からのパノラマ景観は秀逸であり、視程の落ちる夏場でも子持山、小野子山や赤城山等を望めるほか、視程の良い秋から春先にかけては、草津白根山等の志賀高原方面の山並み谷川連峰、武尊山、日光白根山を始めとする日光山地の山並みなど、美しく冠雪した著名な山々を望むことが出来る。

アイススケートリンクが景観的にはやや違和感を抱かせる

- ・ 伊香保スケートリンクと付属施設群は、伊香保温泉の一つの時代を担った施設であり、景観的にも地形との調和に配慮して配置されてはいるが、あまりに大規模な人口施設であるだけに、初めて山上を訪れた人達にとっては、自然風景とはなじまない違和感を抱かせる構造物となっている。

観光・商業地区景観

- ・ 石段街を軸とした旧市街地を中心に、北向きの急傾斜地に旅館群が高密度に建ち並び、特異な温泉旅館・商業施設群の市街地景観である。
- ・ 南からの日照をあまり期待できず、また、期待する必要もなかったため、各旅館は開口部を思い思いの方向に向けており、これが街並み景観に方位や裏側を感じさせない八方美人的な街並み景観を作り出している。
- ・ 当地区は、伊香保温泉の顔となる地区であるだけに、街並み景観の個性を活かし、より洗練された温泉市街地景観の創出が求められている。

〔現況の評価〕

周囲の斜面緑地が自然性を感じさせる

- ・ 傾斜地であるため、市街地の背後にある斜面地の樹林等が目に入りやすく、市街地内の建築密度が高い割には自然性の豊かさを感じさせる。

高木が残されている

- ・ 市街地内の所々に高木や豊かな樹林が残されており、市街地の歴史を感じさせると共にまちの分かりやすさや潤いを感じさせている。

路地空間が界隈性を演出している

- ・ 旧市街地においては、石段脇から東西方向に抜ける路地空間に観光商業店舗や飲食店舗が張り付いている箇所が多く、やや猥雑感のある温泉地らしい界隈空間が形成されている。
- ・ ただし、商業・飲食店舗は近年衰退傾向にあり、建物や路面の劣化も進んでいることから、その再生策が求められている。

道路パターンがわかりにくい

- ・ 急な坂道は不慣れなドライバーの不安感も大きく、歩行者にとっては道を間違えることによるリスクが大きいが、道路標示が不十分である。

交差点がわかりにくい

- ・ 坂道が多く、道路幅員も狭いことなどから、幹線道路でも交差点の位置がわかりにくく、地図を見ても行きすぎてしまうことが少なくない。

街並みが乱雑である

- ・ 高密度な街並みであるにもかかわらず、建物の向きや様式、外壁の色彩等がバラバラであり、街並みに統一感やまとまりが感じられない。

門前商業地景観

- ・平安時代の開基と言われる水沢寺の門前にある“水沢うどん”は、寺同様に古い歴史を有しているが、現在の「水沢うどん街」はモータリゼーションと道路整備が進んだ昭和40年代以降に次第に形態が整えられたと言われている。
- ・水沢うどん街は、地元の人達が頻繁に利用する郷土料理店としてではなく、伊香保温泉を訪れる観光客を主たる顧客として発展してきた飲食店街であるだけに、各店舗は一見客にも好印象を与えることが出来るよう、それなりに魅力ある和風の風格を持った大型の店舗が多い。
- ・したがって、このような現状の景観を活かしつつ、より洗練された門前飲食店街の街並みが整備されることが期待される。

〔現況の評価〕

門前町らしさが不足している

- ・水沢観音の駐車場が北側に整備されたことから、従来の参道石段の存在が希薄になってしまったことは事実であるが、水沢うどん街は、今後も広域観光客を誘引する上で、水沢観音の門前町として、社寺との一体感の醸成が不可欠と考えられるため、門前町らしさを表現する工夫が期待される。

そぞろ歩く魅力に欠ける

- ・うどん店街は、車の立ち寄りを前提とした大型店舗が多く、ゆっくりと各店を品定めすると言ったそぞろ歩く楽しさには欠けてしまっている。

潤い感が不足している

- ・沿道部には樹木や生け垣がほとんど見られず、色彩的には配慮されているとはいえ、建物と看板だけが目に付く沿道景観は殺風景であり、潤い感に欠けている。

歩行者の安全性確保が不足している

- ・歩道を確保できるだけの幅員があるにもかかわらず、車の出入りのしやすさを優先させるためか歩道が全く整備されておらず、優しさに欠けた危険な沿道景観が出現している。

田園集落景観

- ・伊香保市街地北部の山裾地域は、旧合併集落でもある湯中子地区が、農村集落としてのまとまりを感じさせるものの、他の農家や農地は伊香保市街地のスプロール化の中に飲み込まれた形で、宅地や駐車場等との混在化が進んでいる。
- ・ただし、市街地に近い地区は、かなり宅地化が進んでいるが、山裾部には山林も多く残り、比較的良好な景観が維持されている。
- ・今後、この地域の開発の勢いはあまり強くないと考えられるが、温泉街区から北方の眺望を楽しむときの前景（手前に見える風景）となる地区でもあるため、今後は土地利用の用途や街並み形成のルールを定め、樹林や農地を適切に保全し、良好な田園景観の維持向上を図っていく必要がある。

〔現況の評価〕

林地が市街地景観の悪化を防いでいる

- ・無秩序な宅地のスプロール化が進んではいるが、二次林を主体とした山林が比較的多く残されているため、著しい景観の悪化は抑制されている。

無秩序な開発が進んでいる

- ・土地利用が定められていない地域であるため、農地や山林が無秩序に宅地化された乱雑な景観がそこかしこに見られる。

さまざまな屋根の色が煩わしさを感じさせる

- ・積雪地であることもあり、雪対策の容易なトタン屋根が比較的多く見られるが、青や赤の派手なトタン屋根が入り乱れており、視覚的に乱雑で煩わしい集落地の様相を呈している。

3. 都市景観形成の目標と方針

(1) 都市景観形成のフレーム

上位計画である「第四次伊香保町総合計画 住み良く、訪れた人に温かな文化発信の町（2003年～2012年）」において、伊香保町のまちづくりの方向は以下のように整理されており、伊香保町の景観形成の計画目標年次と方向を以下の様に設定する。

- ・当面の目標年次を20年後の2025年に置き、計画の見直しを含めた短期的な目標を5年後の2010年に置く事とする。

「まちの現状」として、客観的な統計資料や地理・地勢などの自然的な条件、住民アンケート調査や住民の意見をもとに、以下のような項目があげられている。

無秩序な町並みから官民協調の町並み形成へ・・・

- ・個人的な開発による栄枯盛衰の結果として、空き店舗や荒廃した建物が町並みを壊している状況を憂い、個人では何とも致し方ない現状を官民で協調し、改善する方法はないか苦慮している状況にあります。

『第四次伊香保町総合計画』P.9 第1編序論 第4章伊香保町の課題 1.伊香保町の特長(4)

また、「今後のまちづくりにおける重点課題」として、以下のような内容があげられている。

(1) 土地利用

- ・無秩序に拡散した経済と生活区域に対して、自然との共生を図った土地利用への指針を求める住民意識が高まっています。
- ・また、土地利用の目的や範囲を示し、未来への展望を開く指針づくりへの取り組みが課題となっています。

(2) 温泉街再生

- ・空き店舗や空き家が点在する温泉街の再生を求める要望が、当該地域だけではなく他地域の住民からも強く求められています。温泉街再生に向けた包括的な活性化事業への取り組みが課題となっています。

(3) 景観

- ・旅館や各商店など各々の建物が、雑多に映る景観の統一を求める意見が年々増えています。町全体の景観整備への、町と住民が協働するための指針づくりへの取り組みが課題となっています。

『第四次伊香保町総合計画』P.10 第1編序論 第4章伊香保町の課題 2.伊香保町の重点課題

また、基本構想において「伊香保町の将来の姿」として、以下のようなまちの将来像を提示している。

- ・まちづくりを進めるための五つの基本的な行動理念（自然との共生、自助共助、一人一学、生涯現役、行動実践）にもとづき、本町の将来像を次のとおり展望します。

住み良く、訪れた人に温かな 文化発信の町

- ・私たちの住む伊香保町は、小さな町ながら多様な意見・感覚を持つ個性あふれた人々が住み働くまちです。
- ・また、古くから温泉と寺社のあった本町は、他地域の人々との交流が長く続き、独特の歴史を育み伊香保という文化を醸成してきました。
- ・そこで、世紀が代わり21世紀の伊香保町を導く指針を、「訪れた人に温かな対応のできる文化発信の町を新たに創造する」とし、住民一人ひとりが人生への目標（生き甲斐）を持つための、学習の機会と場の提供に努め、様々な文化に触れ創造するための取り組みを進めます。
- ・さらに、生涯現役で働き、世の中や地域にとって、必要な人材となるため、一人一学運動を継続的な運動として、「町と住民が協働し実践していくまちづくり」に併せて取り組んでいきます。
- ・第四次総合計画の重点的な施策として、環境の整備、福祉の自立、文化の発信、官民協働の総合的な行財政に取り組み、住みよく訪れた人に温かな文化発信の観光立町に向けた取り組みを進めます。

『第四次伊香保町総合計画』P.17 第2編基本構想 第2章将来の伊香保町の姿 1.伊香保町の将来像

施策の大綱の「まちづくりの分野別構想」の「1.ここち良い郷土づくり(生活基盤と環境)」では以下のような、地域づくりの方針をあげている。

(1) 自然環境

自然環境との調和

- ・自然との共生を基本とした土地利用と、さらなる活性化に向けたまちづくりの計画を策定するため、町域を自然観光ゾーン及び自然住宅ゾーンに大別し、それぞれのゾーン内地区の個性並びに、住民の自主性に配慮した街並み形成や、高齢者や障害者に配慮した福祉環境形成に向けた取り組みを進めます。
- ・また、美しい自然環境の保全と管理に向けた、林地における適正な除間伐と植栽を継続的に実施し、水や温泉資源の保全管理とうまい空気づくりに向けた自然景観林の整備に取り組みます。

温泉と河川

- ・本町の起源となる温泉への感謝を込めた温泉保護、並びに様々な利活用に向けた取り組みを進めます。
- ・また、河川整備については、周辺木々と四季の自然を育むことのできる保全整備に努め、人と河川との関わりを深める取り組みを併せて進めます。

(3) 生活環境

生活環境

- ・身近な問題である環境公害を私たち自身、被害者であり加害者にも成りうることを自覚し、官民が協働して学習し行動実践のできる体制の整備に向けての取り組みを進めます。
- ・また、身の回りの環境を左右する環境美化事業を推進し、身近な緑(小さな自然)をより多く創造して、自然との共生のための保全管理に向けた取り組みを総合的な運動として進めます。

『第四次伊香保町総合計画』P.22,23 第2編基本構想 第3章まちづくりの分野別構想(施策の大綱)

施策の大綱の「まちづくりの分野別構想」の「3.住民が健やかな心身を持つ(生涯学習と健康づくり)」では以下のような、地域づくりの方針をあげている。

(2) 文化

文化・交流

- ・本町の育んできた歴史や文化文学素材の継承発展に努め、国内外の姉妹都市交流や温泉観光地として、共に育て上げた来町者との交流の歴史を後世に伝えて行く取り組みを継続的に進めます。
- ・また、新たな来町者との出会いを大切に、新たな文化を創造して行くための、弾力性のある体制と運用づくりに向けた取り組みを併せて進めます。

『第四次伊香保町総合計画』P.26 第2編基本構想 第3章まちづくりの分野別構想(施策の大綱)

施策の大綱の「まちづくりの分野別構想」の「4.生き生きと働く(産業経済と就業の確保)」では以下のような、地域づくりの方針をあげている。

(2) 観光産業

観光推進

- ・町内の観光振興諸団体との連携を深め、観光振興の諸施策について情報を共有し、無駄な施策を減らし協働による施策を増やし、施策ごとに検証改善するための体制づくりのための取り組みを進めます。
- ・また、町外の観光振興諸団体との連携を強化し、広範な地域全体での集客対策を講じるための、体制と機会を創出する取り組みを併せて進めます。

観光資源

- ・これまでに投資してきた観光施設の質的な向上を図るため、文化・文学資源を活用し魅力を創出するために、町と住民の協働での取り組みを進めます。
- ・また、自然景勝観光地域についても適正な樹木の除間伐や植樹に努め、四季の自然の魅力を向上するための取り組みを併せて町と町民との協働により継続的に進めます。

『第四次伊香保町総合計画』P.28 第2編基本構想 第3章まちづくりの分野別構想(施策の大綱)

その他、伊香保温泉旅館協同組合がとりまとめた『設立 50 周年記念誌』では、今後の町内に景観整備に関わる記述として、以下のような事項をあげている。

第三部「伊香保温泉の将来ヴィジョン」(未来に向けて、情報発信のたね)より

既存の樹木の保護と整備

- ・樹木の数量は必要充分を満たしているため、見る、見られるという観点からの保護と整備が必要である。

まちの景観

道路に点在する事業所の看板や誘導表示を樹木の邪魔にならない色で掲示されるよう使用できる色の範囲を特定する。

何十年かけてでも電線を地中化する。

建造物の壁や屋根に使用できる色の範囲を限定する。

夜間の照明、特に街灯を電球色に統一する。

樹木の密生地を造成する。季節ごとに楽しめる事が必要条件で駐車場を有する敷地を考えると既存の渋川市総合公園や榛名湖周辺の再整備が現実的かもしれない。

石段街(情緒ある「商店街」をめざす)

- ・メインストリートと伊香保神社を經由して湯元を結ぶ導線としての役割は非常に大きい。

見晴台地区(眺めの良い旅館街)

- ・伊香保温泉の一区域としては相対的に眺めが良く区域全体を「眺めが良い」旅館街としてその景観保全に努めていきたい。
- ・景観の良い旅館街を見晴台温泉街地区の宣伝材料として活用できるくらい、力をいれて保全、改善したい。

かみなり坂(車両導線としての役割)

- ・細い割に渋川吾妻線と交差する等、各旅館から駐車場へ向かう車が行き交う交通量の多い道路である。道路脇には、時限的ではあるが、歩行者のための演出がすでに手がけられ始めている。

梨木坂(大規模旅館)

- ・設備の整った大規模旅館が隣接し駐車場の環境等、施設の充実度が高い。旅館の所有する庭園や森林の活用を期待する。

伊香保街道【渋川松井田メインストリート】(縦の石段、横のメインストリート)

- ・照明の演出などで伊香保に入ったという印象的風景を観光客に与える役割と、特産物等の販売店による魅力的な商店街の形成を促し、歩行者の導線としての役割も担ってゆくべきである。現在の客観的な印象は例えば花の咲く季節に伊香保カントリー、グリーン牧場あたりで桜、つつじ、紫陽花などが山の涼しい空気と共に目に飛び込んでくる。一転、伊香保の温泉街に入ると、殊に蘆花記念文学館前辺りまでは都市部の再開発の遅れている通勤駅周辺となんら変わり映えしない見飽きた風景が印象に残る。打開策として、木々の全く存在しない風景、徹底的に整備された土や緑が見えず雨が降ってもストレスが少なく歩き回れる、排水性に優れた歩道と、バスとすれちがっても威圧を感じない程度に広い車道を造成して

みてはどうか。「観光客に優しい」という印象と、周りの自然をより強烈に感じさせる事が同時に達成される。このメインストリートには町の「玄関」として「自動車の流れ」だけでなく「人の流れ」に配慮した環境整備を望みたい。

湯元(源泉があふれる「山」への入り口)

- ・山への玄関口としての環境は整っているように見える。強いて言えば駐車場の整備がより強化される事と、湯元通りの居住者車両以外の時間帯による通行禁止化が求められる。

水沢地区(伊香保への入り口)

- ・うどん屋が立ち並び、観音様が上に控える水沢地区は伊香保の三つある入り口の一つで昼食の一大スポットとしての地位は揺るぎない。

森林公園及び長峰地区(マイナスイオンの宝庫)

- ・現状、これからの地区はさまざまな観光資源を有しているが、それらを表現する際に、必ずあまり知られていないという形容詞がついてしまう。より多くの方に利用していただく為のPRに力を入れる他、山のガイドさんを育成し、利用者の利便性を高めるべきである。

湯中子、中子方面(まちの広がり)

- ・町の入り口のひとつである湯中子方面は、畑や田んぼなどの非常に懐かしい風景があり、比較的平らなので散策にも適している。ジャーマンアイリスや牡丹、芍薬、バラ、盆栽等即売可能な農産物も多数あるので寄り道出来る事をアピールすれば町が広がるのではないだろうか。

(2) 都市景観形成の目標

平成 16 年 5 月に策定された伊香保町の都市計画区域マスタープランである「伊香保都市計画・都市計画区域の整備、開発および保全の方針」では、群馬県および渋川広域都市圏の都市づくりの理念・イメージを受けて伊香保町の“都市作りの目標”を次のように定めている。

<p>[伊香保都市計画区域 都市づくりの目標]</p> <p>榛名山麓の共生と循環の都市づくり</p> <p>リゾート感覚あふれ快適で活力あるまちづくり</p> <p>ふれあいと安心のコミュニティづくり</p> <p>相互連携と支援の軸となる都市圏ネットワークの構築</p> <p>情緒豊かなロマンとふれあえる歴史と文化のまちづくり</p>
<p>< 群馬県 都市づくりの基本理念 ></p> <p>『豊かな田園と自然環境・美しい景観と文化が感じられる都市』</p>
<p>< 渋川広域都市圏 都市づくりイメージ ></p> <p>『都市の快適さと豊かな自然が共存し、心地良い暮らしと新たな出会いがある都市圏』</p>

・伊香保町の都市整備の計画目標および総合計画に示された伊香保町の将来像を踏まえ、伊香保町の将来に向けた地域景観形成の目標を次のように定める。

<p>伊香保町における地域景観形成の目標</p> <p>榛名北麓の杜から湧き出でる恵み豊かな湯に生まれ、万葉の代から培われた温泉の歴史と文化とを礎として、榛名山の豊かな自然に囲まれた石段街の街並みと水沢観音の門前街、そして北方の山並みを望む雄大な眺望景観を活かし、</p> <p>「趣と風格、そして心の温もりを感じさせる温泉まちの景観を創造する。」</p>

(3) 都市景観形成の方針

・伊香保町の景観形成の目標を達成するため、次のような方針をあげることにする。

< 地域景観形成の方針 >

榛名山麓の豊かな自然と緑、湯沢川等の水系の清流や温泉水、そして美しい眺望景観を活かし、恵まれた自然環境と景観を享受できる町とする。

温泉街や田園集落等を中心に、樹木の保全と緑や花の育成、水辺環境の整備等に努め、四季を通じて心地よさと潤いのある美しい町とする。

古くからの歴史と結びついた、伝統景観や温泉文化を生活や行事の中で慈しみ育むことによって、地域への誇りと愛着を持てる町とする。

美しく快適な空間や街並みの整備を進めることにより、町民にとっても訪れる観光客にとっても、親しみの持てる町とする。

景観環境の改善によって、町のイメージを向上させ、自然・文化温泉リゾート地域としての経済的、文化的な活性化へと結びつける。

事業の展開にあたっては景観形成の長期的な熟成を図るため、住民参加を中心として全町的な盛り上がりによる、望ましい景観形成の動きを促進していく。

前記の方針のうち

～ は、伊香保町に置かれた自然的・社会的条件を基本としつつ、その地域特性を浮き彫りにすることによって、伊香保町における個性的な景観形成を狙ったものである。

は、普遍的な目的としての美的環境の創出をと定住化を目指すものである。

は、地域全体の将来目標を達成するために、景観計画が果たすべき役割を明らかにしたものであり、魅力ある観光都市として、一般都市よりもより質の高い景観整備（茶の間づくりではなく客間づくり）を目指す必要がある。

は、主として手段に関わる方針であり、目標到達への過程における姿勢を明らかにしたものである。

3章 伊香保町都市景観ガイドプラン

1. 景観形成ゾーンの設定

- ・景観ガイドプランの設定にあたっては、2章で整理した都市景観形成の目標と方針にそって、1章で整理した伊香保町の地形や植生、土地利用の現況や都市計画の用途地域と整備方針、そして景観特性と景観類型別資源の現況とを組み合わせ、今後の景観形成のタイプ毎の「景観形成ゾーン」を設定し、景観形成指針をとりまとめる。
- ・なお、スポット景観については、各ゾーン内において、それぞれの特性に応じた景観配慮を加えることとし、このレベルでは個別には扱わない。
- ・また、上記の景観形成ゾーンは、多様な景観的意味合いを持つ地形や土地利用等の景観特性をベースとしているものであるから、部分的に重複していることも当然ありえる。
- ・たとえば、右表の道路軸景観形成ゾーンについては、中心市街地景観形成ゾーンの他いくつかの景観形成ゾーンと重なり合ってくるが、この場合、重なり合っている部分については、双方のゾーンに対する配慮が必要になってくることを意味している。
- ・伊香保町における景観形成ゾーンの区分は、右のようなものであり、事項においてはこのゾーン別に景観形成の方向をとりまとめ、さらに次章以降においては重点地区である中心市街地ゾーンの景観形成指針の検討を行う。

【景観形成ゾーン】

《眺望型景観》...先の全体景観類型に対応

- ・山上や公園、公共施設等の主要眺望地点からの眺望
- ・河川・道路等の視界の開けた地点からの眺望
- ・外部から町内へアプローチする際の眺望

《地域軸景観》...先の都市軸景観類型に対応

- < 歴史文化軸景観形成ゾーン >
- < 河川景観軸景観形成ゾーン >
- < 道路軸景観形成ゾーン >

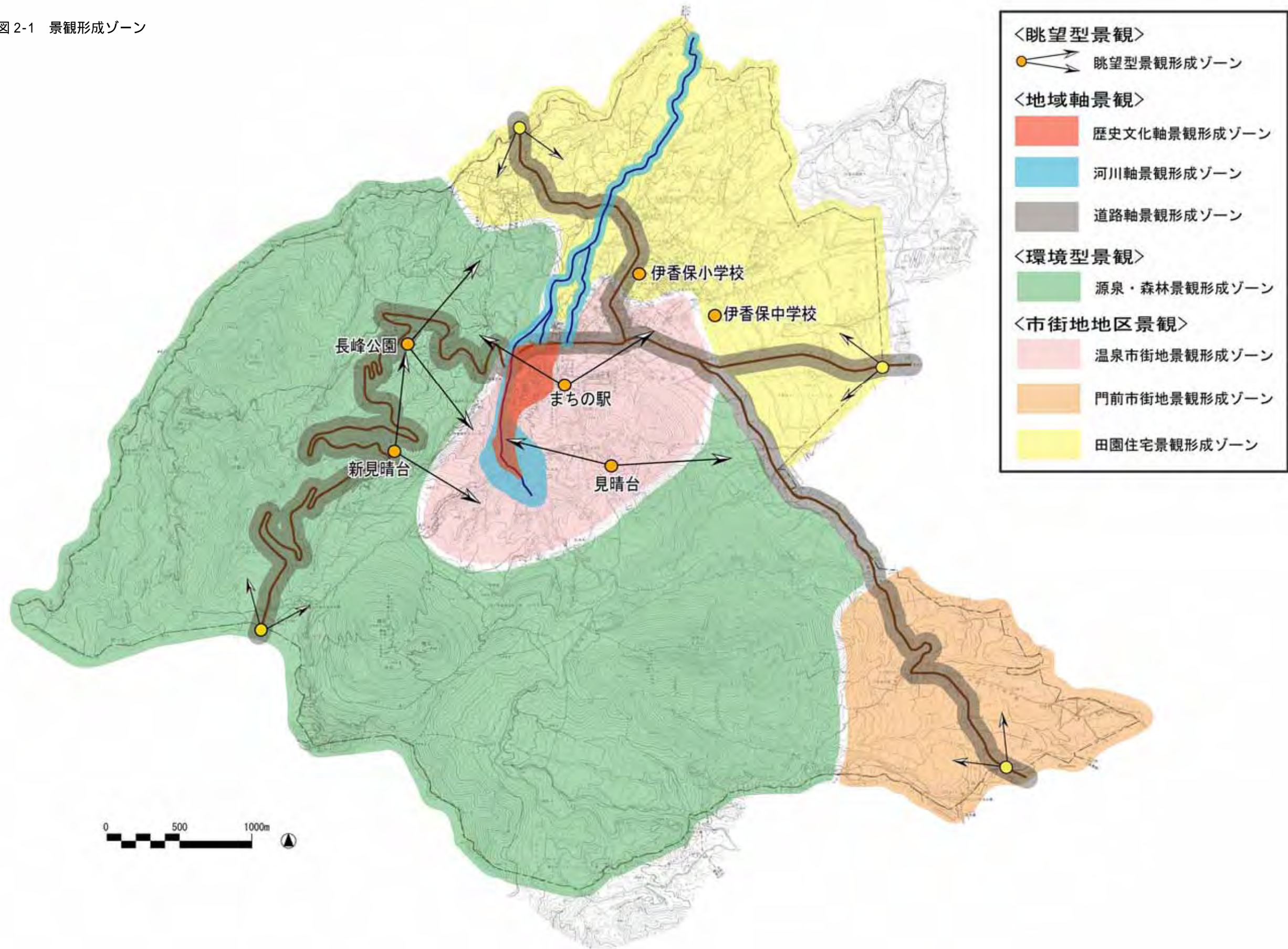
《環境型景観》...先の自然地域景観類型に対応

- < 源泉・森林景観形成ゾーン >

《市街地地区景観》...先の市街地景観類型に対応

- < 温泉市街地景観形成ゾーン >
- < 門前市街地景観形成ゾーン >
- < 田園住宅景観形成ゾーン >

図 2-1 景観形成ゾーン



2. ゾーン別景観形成指針

- ・各ゾーンの景観的特性に基づき、景観形成の基本的な方向と具体的な方策指針を整備すると、次のようになる。

《眺望型景観》

(1) 眺望型景観

- ・山上や公園、公共施設等の主要眺望地点からの眺望
- ・河川・道路等の視界の開けた地点からの眺望
- ・外部から町内へアプローチする際の眺望

景観特性
<ul style="list-style-type: none"> ・伊香保町における眺望型景観といった場合、眺望される対象は、町外の北方に位置する小野子山や子持山、西側の草津白根山系から北部の谷川山系、武尊山、日光白根山を経て東側の赤城山方面に向けて広がる遠景のパノラマがある。 ・ただし、パノラマ景観を味わう場合の前景（中景）となる町内の田園住宅ゾーンの景観に関しては、美しい街並み景観とは言えない状況にある。 ・一方、町内の主要な眺望対象は、榛名山を構成する山岳があり、町内におけるランドマークである水沢山や二ツ岳などがあげられる。 ・町への進入道路の眺望としては、主要地方道渋川・松井田線の伊香保カントリー倶楽部周辺や、主要地方道前橋・伊香保線の水沢地区、県道伊香保小野上線の万代橋付近などは、比較的良好な沿道景観が保たれている。 ・このような地域イメージと結びついた眺望景観は、「地域らしさ」を強調する上でも重要な要素となる。
景観形成の基本的な方向
<ul style="list-style-type: none"> ・景観特性からもわかるように、これらの眺望対象は必ずしも景観形成に際しての直接的な操作対象としてなるわけではなく、以後に述べるあらゆる景観計画の背景として、また地域らしさを演出する要素として、活かすべき保全対象といえることができる。 ・このような眺望型景観にとっては、これらを眺める場所（視点場という）を極力数多く整備していくことが肝要で、既存の展望地点のみでなく、市街地内部の多くの場所からも、遠望を楽しめるような配慮が必要となってくる。 ・伊香保町においては、主要眺望対象である二ツ岳や水沢山、町を取り巻く背景の緑と山裾の集落や市街地との視覚的な調和への配慮を十分に講じていく必要がある。

- ・眺望を楽しむ主体は、観光客など外部から訪れた人達だけでなく、町民自体が日常的に我が町の「郷土景観」に触れられるように配慮していくことも大切であり、そのためには「我が町」の展望を楽しむ視点（展望箇所）を更に追加整備していく必要がある。
- ・このように日常生活の中で「我が町を眺める」機会（場所）を増やしていくことは郷土景観への愛着をより一層深め、美しいまちづくりの意識を高める上でも、効果的な施策となりうる。
- ・主要県道の町の入り口部分については、来訪者に対して伊香保温泉に到着したことを知らせるため、沿道環境を活かしつつ何らかのゲート表示を行うことも必要である。

景観形成指針

- ・集落内や周辺への新たな視点場（展望地点）の整備とそこへのアプローチルートの確保
- ・視点場の環境整備
- ・町内のランドマークである二ツ岳、水沢山等の山岳の緑地の保全
- ・施設整備等における町を取り巻く山並みとの景観的調和への配慮
- ・市街地や集落の背景となる斜面緑地の整備・保全
- ・町の入り口におけるゲートサイン等の整備

長峰公園

（温泉街の市街地景観、物聞山）

- ・建築の色彩、スカイラインのコントロール、樹木の植栽、展望台の修景

新見晴台

（小野子山、子持山、赤城山～日光白根山～武尊山～谷川山系～草津白根山系）

- ・榛名山麓の稜線保全、斜面緑地の保全

（湯中子の農村景観）

- ・農村集落景観の向上（青、赤のトタン屋根の焦げ茶への塗り替え等）

見晴台

（小野子山、子持山、赤城山～日光白根山～武尊山～谷川山系～草津白根山系）

- ・前景の斜面緑地の保全、適度な見通し伐開

伊香保町への進入道路

- ・看板類の規制、沿道修景、ゲートサインの設置

- ・二ツ岳、水沢山、物聞山等への眺望景観の確保

伊香保小学校・伊香保中学校

- ・郷土景観認識のための視点場の整備（展望コーナー等）

《地域軸景観》

(2) 歴史文化軸景観形成ゾーン

景観特性
<ul style="list-style-type: none">・石段街は、約 430 年前の天正 4 年(1576)に整備され、日本初の温泉リゾート都市計画として、古来より伊香保温泉のシンボルとして広く知られている。伊香保神社や旧ハワイ王国公使別邸、関所跡や温泉都市計画の碑なども含め、石段街周辺は伊香保町の歴史文化を象徴するゾーンとなっている。・石段は町のシンボリック存在であり、石段街周辺は、町全体の景観保全の中核となる地域として、町全体の景観整備に影響を及ぼす地域といえる。・石段街を中心とした旧市街地は、歩行を前提として形づくられた街であるため、車では利用しにくい、傾斜地であるにもかかわらず、歩行者には比較的抵抗無く歩くことの出来る、ヒューマンスケールの街区や界隈空間が形成されており、街を特色づける要素となっている。
景観形成の基本的な方向
<ul style="list-style-type: none">・石段街脇の路地群によって構成される界隈空間の魅力の向上を図り、伊香保温泉を特色づける逍遙空間とするため、ハード、ソフト両面からのきめ細かな再整備を進める。・石段街の景観整備と共に、石段街の歴史資料の展示や案内看板の設置、関連イベントの開催などにより、地域のシンボル性をより一層高めるための配慮を加える。
景観形成指針
<ul style="list-style-type: none">・石段街の景観整備（街並みや看板、ストリートファニチュア、植栽等）の推進・石段街の周辺街区に関する街並み整備の推進・石段街に関わる歴史や文化の掘り起こしとその保全・活用

(3) 河川景観軸景観形成ゾーン

景観特性
<ul style="list-style-type: none">・休火山である榛名山の火山灰地に位置する伊香保町は、降雨は一時的に河川に入ってもすぐに地中に浸透してしまう水利の乏しい町である。・また、急峻な地形が多いため、降雨時は河川の浸食が激しく、町内には多数の枯れ谷があって浸食や崩壊を防ぐ砂防工事が行われている。・このため伊香保町では、周囲の緑環境は豊かであるものの、水辺空間は乏しく、河川が町の環境要素となっていない。・ただし、温泉市街地内には僅かではあるが、常時水や温泉水の流れる河川もあり、水辺の潤い安らぎ軸として適切な整備を進め、町のイメージ形成につながるシンボル空間化して行くことを検討すべきと言えよう。
景観形成の基本的な方向
<ul style="list-style-type: none">・急峻な地形であり、水量も限られているため、一般の河川のような親水環境整備は難しいが、市街地内の河川用地や橋等において、流水や水音を楽しむ空間作りを進める。・また、河川に放流される温泉の捨て湯を活かした湯煙の演出なども、温泉地らしさを表現するために適宜試みるべきである。・また、川としての多様な魅力を取り戻す意味で、水質の保全、河川生態系への配慮も今後の課題となる。
景観形成指針
<ul style="list-style-type: none">・水を活かした親水空間の整備・親水護岸の整備・親しみの持てる橋の整備推進・堤防や法面の緑化推進・生態系の保全、復元・川に因んだ行事の展開

(4) 道路軸景観形成ゾーン

景観特性
<ul style="list-style-type: none"> 伊香保町の観光振興を図るため、昭和 33 年に開通した「渋川伊香保有料道路」に続いて、昭和 37 年には伊香保と榛名山を結ぶ「榛名有料道路(スカイライン)」が開通し、モータリゼーションの拡大に伴って伊香保観光は順調に拡大を見せた。 これらの有料道路は、20 年の償還を経て一般開放され、主要地方道渋川・松井田線となって現在も伊香保観光を支える動脈として重要な役割を担っている。また、当初、観光有料道路として 7.5m~9.5mの広幅員で整備されたため、現在も幅員にゆとりを持ち、沿道に緑の多い観光地へのアプローチ道路として、伊香保温泉の第一印象の向上に寄与している。 その後拡幅整備が行われた主要地方道前橋・伊香保線も、水沢観音と水沢うどん店街が伊香保温泉の玄関口の役割を担っており、水沢観音から温泉街までの沿道も県有林の緑豊かな環境によって、伊香保温泉の第一印象の向上に大いに寄与している。 一方、沿道に田畑や農村集落が分布する県道伊香保・小野上線においては、観光道路としての役割は、あまり高いとは言えないものの住民生活に密接に関わる道路としてその役割が重視されている。 主要地方道渋川・松井田線の市街地通過区間においては、温泉市街地を分断する街路というイメージが強く、道路軸としての魅力やシンボル性の向上が必要とされる。
景観形成の基本的な方向
<ul style="list-style-type: none"> 伊香保町への進入道路の、沿道景観の整備をより一層押し進める必要がある。 渋川・松井田線に関する、人々が集まる道路軸としてのシンボル性の向上。
景観形成指針
<ul style="list-style-type: none"> 沿道の看板類のコントロール 沿道の擁壁、法面の修景 道路付属物、占用物のデザイン的配慮 道路及び沿道の緑化の推進 沿道市街地の形成(主要地方道渋川・松井田線の伊香保中心部) 街のゲート性の演出(進入部付近)

《環境型景観》

(5) 源泉・森林景観形成ゾーン

景観特性
<ul style="list-style-type: none"> ここでいう森林景観とは、榛名山を構成する相馬山や二ツ岳、水沢山、蛇ヶ岳^{じゃがたけ}、五万石、臥牛山^{ねうしやま}等の山々とそれを覆う緑、そしてその中心部に位置する県立伊香保森林公園であり、伊香保町を特色づける豊かな自然景観を有する地域である。 この地域は、相馬山の標高約 1,412mから市街地南部の約 960mまで標高差が約 450mあり、植生的にも落葉広葉樹林帯から針葉樹林帯までの多様な植物相(景観)を有し、年間を通じて多くの鳥類が生息し、渡り鳥の通過地点になっているなど、生態学的にも重要な地域である。 さらに、これらの森林は伊香保温泉の湯元の上部に位置し、源泉を涵養している森でもある。
景観形成の基本的な方向
<ul style="list-style-type: none"> 当ゾーンにおいては、緑豊かな自然景観を創り出している自然生態系の保全への配慮を基本とする。 一方で、伊香保森林公園等の適切な保全と利用のための観光的レクリエーション的な整備を図る必要がある。 樹木の伐採や地形改変を余儀なくされる場合は、緑の損失を最小限に留めるよう配慮し、その被覆や緑の再生には最大限の努力を払うように心がける。
景観形成指針
<ul style="list-style-type: none"> 開発行為の抑制 自然生態系や自然景観に配慮した施設整備 法面処理や擁壁における材料・工法等の規制・誘導 眺望景観の確保 <p>源泉・水系</p> <ul style="list-style-type: none"> 源泉上部の自然環境の保全 砂防堤等におけるデザイン・材料・工法等の検討 水性生物の生態系への配慮 <p>樹林地</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発の抑制 開発密度の規制検討 動植物生態系への配慮 法面処理や擁壁等における材料・工法等の検討 <p>伊香保森林公園</p> <ul style="list-style-type: none"> 動植物生態系や水源涵養への配慮 法面処理や擁壁等における材料・工法等の検討 施設整備等における自然環境と調和したデザインの配慮・色彩コントロール 道路及び沿道の緑化の推進 必要に応じた見通し伐開

《市街地地区景観》

(6) 温泉市街地景観形成ゾーン

景観特性
<ul style="list-style-type: none">・温泉市街地景観形成ゾーンは、伊香保町内で最も市街化が進んでいる地域であり伊香保町の「顔」とも言える地区である。また、訪れる観光客も多いことから、質の高い景観形成が進められるべきゾーンでもある。・温泉市街地は、石段街周辺の「旧市街地」と、その東側に位置する「新市街地」に大別できるが、新市街地はさらに主要地方道渋川・松井田線によって、山上寄りの「(仮称)新市街地南地区」と山裾寄りの「(仮称)新市街地北地区」に分けられ、合計3地区に区分される。・全域が傾斜地であるため、歩行者のための歩きやすい歩行路の確保が難しく、ユニバーサルデザインへの対応は、今後の大きな課題となっている。・現在、このゾーンでは、「大正浪漫」等をイメージしたまちづくりが展開されている。
景観形成の基本的な方向
<ul style="list-style-type: none">・新旧市街地の景観的な結びつきを強め、温泉市街地全体の活性化を狙う(石段街を中心とした旧市街では“和風”のイメージを重視し、新市街地では“大正浪漫”のイメージを重視した街並み形成を図る)。・温泉地らしさと情緒を感じさせる風格ある市街地の形成を図る。・快適で魅力ある歩行空間の整備を進め、温泉街に人々が滞留し交流する空間を整備する。・歩行者、運転者へのわかりやすさの向上を図る。
景観形成指針
<ul style="list-style-type: none">・土地利用や建築のコントロール・地区計画制度等の導入・社寺等の環境整備・斜面林と古木、高木の保全・河川・水路周辺の親水空間整備・道路整備と沿道植栽の推進・交差点の整備、特色付け・公園・緑地の整備、保全・花による修景の推進・歩行動線と歩行環境の整備・不調和な看板類の排除

(7) 門前市街地景観形成ゾーン

景観特性
<ul style="list-style-type: none">・このゾーンは、水沢観音の門前町として形成され、主要地方道前橋・伊香保線に沿って発達した列状の市街地が中心となっている。・門前町の主要地方道前橋・伊香保線は「うどん街道」とも呼ばれ、県道沿いの約500mの区間に十数件のうどん店を中心とした商業施設が立ち並び、自動車利用を前提としたスケールのロードサイド飲食エリアが形成されている。・観光シーズンには、多くの参拝者や観光客が訪れ、大量の通過交通が発生するため、住民の生活の安全性や快適性と言った点からはマイナス面の影響も生じている。・また、このゾーンでは、水沢山やその周辺の自然景観や、水沢観音等の歴史文化景観要素があり、沿道の建物も和風の落ち着いた様式に揃えられているが、沿道部に緑が少なく、また歩道が未整備であるなど、人にやさしいとは言えない沿道景観となっている。
景観形成の基本的な方向
<ul style="list-style-type: none">・沿道景観の魅力向上をより一層押し進める必要がある。・歩行者にとっても快適で安全な道路環境の整備等を促進する。
景観形成指針
<ul style="list-style-type: none">・沿道の花や生け垣による修景緑化の推進・歩道整備の促進と街路樹の植栽・交差点の整備、特徴付け・沿道の看板類の色彩等のコントロール

(8) 田園住宅景観形成ゾーン

景観特性
<ul style="list-style-type: none">・伊香保町北部の山裾の広がるこの地域は、住宅地と農地が混合した地域であるが、特に湯中子の集落には、伝統的な農村集落が存続しており、田畑と集落が落ち着いた田園景観を形成している。・また、大山祇神社や中子稲荷等は、町の歴史を伝える文化財として、このゾーンのイメージ形成上も重要な存在となっている。・一方、このゾーンにおいては、中心市街地のスプロール化に伴って住宅が農地や山林を蚕食する形で無秩序に立地しており、傾斜地にひな壇造成が行われて各所に擁壁が出現すると共に、統一感に欠けた不調和な建築群も出現しており、やや殺風景で乱雑なイメージの景観が各所で見られる。・また、傾斜地に大規模に広がる農地や山林内に新興住宅が点在し、道路整備も追いついていないため、位置や方向を把握しにくく迷いやすいゾーンでもある。
景観形成の基本的な方向
<ul style="list-style-type: none">・農村集落と田畑や雑木林が榛名山の緑と調和した、開放的で味わい深い田園景観の保全・育成を心がける。・歴史的な農村集落の景観保全と活用を促進する。・地区内のわかりやすさに配慮したランドマークの演出や個性的なスポット空間の演出を進める。・水系の保全と活用を進める。
景観形成指針
<ul style="list-style-type: none">・伝統的農村集落の保全と再生・不調和建築物土木構造物の規制・誘導手法の検討・歴史財（社寺、石仏等）の環境整備・わかりやすさに配慮した並木や交差点、公共施設等の演出・農地や集落の花による修景の促進・不調和広告物の除去・水系の保全と親水空間の整備

集落地

- ・伝統的農村集落の保全と再生
- ・擁壁の景観対策
- ・不調和建築群の規制・誘導手法検討
- ・歴史財（社寺、石仏等）の環境整備
- ・花や生け垣による修景の促進

田園地帯

- ・不調和建築群の規制・誘導手法検討
- ・不調和広告物の除去
- ・わかりやすさに配慮した並木や交差点の演出
- ・花や生け垣による修景の促進
- ・公園の整備
- ・雑木林の保全
- ・法面や擁壁の材料・工法等の規制・誘導
- ・水系の保全と親水空間の整備